

<p>タイトル</p>	<p>2023 年度学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育専攻 小論文問題</p>
<p>評価の ポイント</p>	<p>小説の一シーンを材にとり、教師としてのあり方、生き方について考察する問題である。出題されたシーンにおいて女性教師エマ・ハリスは、「本当の自分」と「教師としての自分」を切り分け、教師は芝居をしているのと同じで「本当の自分」にはぜったいになれないと発言する。</p> <p>この発言に基づいて出された2つの問いについて、以下の点を重視することにより、受験生の読解能力、思考能力、表現能力の評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問1：上記のハリスの教師観を正確に読みとれているか。そのうえで、自分の立場を明晰に叙述し、その理由をわかりやすく表現できているか。（ハリスの教師観に賛成するか、反対するかについて、どちらを選ぶか自体は評価に影響を与えない。）</li> <li>・問2：「本当の自分」について自身の定義、説明、あるいは具体例等を与えたうえで、教員として働く際に自分であれば「本当の自分」とどのように相対するかを明確に記述できているか。（「本当の自分」を職業生活の中で活かすか、抑制するかについて、どちらを選ぶか自体は評価に影響を与えない。）</li> <li>・原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現の形式面で問題がないか。</li> </ul> <p>【出典】ロバート・ウェストール（著）小野寺健（訳）『青春のオフサイド』徳間書店、2005年（原著1993年）、181-182頁。</p>